

意見交換会の概要

平成23年度社会福祉振興助成事業 事業報告会における「意見交換会」においては、参加団体が活動を実施するにあたって役立つポイントや今後の参考となるような工夫などについて、活発な意見交換が展開されました。
当日の主な意見は...

<助成事業を実施してみてもの課題>

- 助成事業を通じて、支援するには団体の専門性を確保する必要があると感じた。
- 更なる活動の発展には、書類作成のスキルや交渉術、会計のスキルなど、実務的なものが大事であると感じた。
- WAM助成は単年度事業だが、助成期間中から活動を通じて寄付を得たり、会員を募ったりすることで、翌年度以降の事業につながるような先を見据えた事業展開も必要。
- 団体内・外問わず、協力を得ることが重要

<広報活動について>

- 福祉関係の活動をしている団体は広報が下手。
- 助成事業をしていて自分たちの活動をどうやって相手に伝えていったら良いのか。
- 子育て支援活動の一環で地域のコミュニティFMを活用したことがある。想定していたよりも大きな広報効果があった。

<連携や協働について>

- 連携や協働の体制をどのような方法で築いていけばよいのか。
- 例えば、
自団体に関係する講座や研修会で顔見知りになる、地域のNPOセンターを活用し、ニーズ(自団体の弱い部分)を満たす団体とのマッチングを相談する、自治体に名義後援を依頼するために担当者に顔を売る など

<活動資金の確保について>

- 活動資金を確保するためには、普段から団体や活動実績をアピールしておくことが重要 → 広報活動の重要性へ
- 活動資金を確保するため、事業提案書を持ち市役所などの支援先に売り込んで事業の必要性を理解してもらったり、活動のアイデアを、自団体だけでなく他のNPOなどからも得るなど、地域で連携して事業効果を高めていく努力をしている。